

京都府における治療と仕事の両立支援の取組状況

地域両立支援推進チームの会議開催

http://kyoto-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/var/rev0/0124/3683/KE_20170818A.pdf

- 日時：平成29年7月28日14時～16時15分
 構成員：京都府健康福祉部 健康対策課（がん対策担当、疾病対策担当）
 京都府健康福祉部 高齢者支援課（地域包括ケア推進担当）
 京都府健康福祉部 リハビリテーション支援センター
 一般社団法人 京都府医師会
 京都大学医学部附属病院
 京都府立医科大学附属病院
 公益社団法人 京都労働基準協会
 日本労働組合総連合会 京都府連合会
 京都地方労働組合総評議会
 京都府社会保険労務士会
 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
 一般社団法人 日本産業カウンセラー協会 関西支部
 特定非営利活動法人 日本キャリア開発協会
 京都労働局（労働基準部 健康安全課、職業安定部 職業安定課）
 独立行政法人労働者健康安全機構 京都産業保健総合支援センター

取組状況

○京都労働局

●リーフレットの作成

「治療を続けながら働く人を 応援する事業者の皆様へ」 事業者用

治療と仕事の両立に向けて、オール京都で応援します。

両立支援はなぜ必要？

- 働く世代で病気の人は多い！
 ・病気を理由に1か月以上休業している労働者がいる企業の割合はがんが21%、脳血管疾患が12%です。
 ・仕事をしながら、がんの治療で通院している人は、32.5万人
- がんは不治の病から長く付き合う病気！
 日本人の2人に1人が生涯に1度はがんになるといわれています。治療技術の進歩により、「不治の病」とされていた病気も生存率が向上し、「長く付き合う病気」に変化しています。
- 病気になった人も仕事を続けたい！
 病気になっても働き続けたいとする人は、92.5%もいます。生計を維持するため、治療費のためはもちろんです。自分の仕事に期待してくれる人々がいることは、病気と闘いやすくなり、生きがいにあります。

社員が、悪い病気になるしよつが、無理なく働け続けたいためには、どうすれば良いのだろうか？

両立支援は、事業者・働く人ともにメリット！

事業者(会社)のメリット

- 貴重な人材資源の喪失を防げる
- 継続的な人材の確保、人材の定着
- 労働者のモチベーションの向上による労働生産性の維持・向上
- 健康経営の実現
- 多様な人材の活用

安心して働ける職場・企業の成長へ

働く人のメリット

- 治療に関する配慮が受けられ、病気の悪化が防げる
- 治療を受けながら仕事が続けられる
- 継続して収入が得られる
- 仕事による社会貢献や自己実現
- 安心感、モチベーションの向上

京都府地域両立支援推進チーム

両立支援の取組の連携を図り、病気を抱える労働者が活躍できる環境を整備することを目的として、京都府内における両立支援を推進する関係者（国・自治体・医療機関・関係団体等）で構成するチームです。
 （事務局：厚生労働省 京都労働局労働基準部 健康安全課）

「病気になっても働き続けたい皆様へ」 労働者用

治療と仕事の両立に向けて、オール京都で応援します。

病気の治療をしながら仕事をしている方は、労働人口の3人に1人と多数を占めています。長期の治療が必要と診断されても、
 ・治療技術の進歩により「不治の病」は「長く付き合う病気」に！
 ・仕事をしながら治療を続けることが可能な時代に！
 なりましたが、病気を理由に仕事を辞めしてしまう方が、例えば、がんの場合、約34%もいます。

仕事を辞めるかどうか、一人で悩んで離職してしまう前に、相談してみませんか？
 がん、脳卒中、心臓疾患、糖尿病、肝疾患、高次脳機能障害、難病、若年性認知症、精神疾患など、疾患を抱える方の治療と仕事のサポートを行っています。

相談先は裏面（相談は無料です。）

治療を続けるためにはお金もかかるし、家族の生活費も大変なぞ！ →相談先A又はCへ
 私の職場に病気でも休める休職制度はあるのかな？ →相談先Aへ
 やりがいのある仕事だから、続けたい、辞めたくない！ →相談先Bへ
 病気について誰に相談したら良いんだろう？ →相談先Cへ
 病気のことを上司に話せば、同僚には知られたくない！ →相談先Aへ
 どこへ相談したら良いんだろう？ →相談先Cへ

患者さんの声(胃がん)
 復職後はしばらく、食事を1日に回数に分けて取らなければならなかったのですが、職場に相談して1日1回のペースから徐々にペースを上げてもらいました。

患者さんの声(脳血管疾患)
 治療やリハビリのために1年半休職し、復職後、最初の1週間は1日1時間から勤務を始め、午前中のみ勤務から徐々に勤務時間を長くしました。

患者さんの声(難病)
 診断された後、仕事に忙しく自覚がなかったのですが、定期的な通院したところ通院するよう勧められ、通院のための休職を定期的に取得させてもらえるようになりました。

京都府地域両立支援推進チーム

両立支援の取組の連携を図り、病気を抱える労働者が活躍できる環境を整備することを目的として、京都府内における両立支援を推進する関係者（国・自治体・医療機関・関係団体等）で構成するチームです。
 （事務局：厚生労働省 京都労働局労働基準部 健康安全課）

http://kyoto-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/news_topics/topics/2017/_120589.html

●出張相談窓口（就職に関する相談）の設置（京大病院・府立病院）

○京都産業保健総合支援センター

●産業保健スタッフ向けの研修会

平成 29 年 12 月 8 日 14 : 00~16 : 00

会場：アーバネックス御池ビル 2 階

「がん罹患者就労支援」

●出張窓口（就労継続に関する相談）の設置（京大病院・府立病院）

●独立行政法人労働者健康安全機構
京都産業保健総合支援センター



がんと診断されても 仕事を続けたい 会社を辞める前に まず相談を！

がんは不治の病だというイメージもあって、がんと診断されただけで会社を辞めてしまう人が多くおられます。しかし今では、がんは全体の3分の2が治り、早期がんならほとんどが治ります。

大切なことは、がんと診断されても仕事を辞めない、会社としても辞めさせないことです。

京都産業保健総合支援センターでは、労働者の方が治療を続けながら安心して働き続けることができる職場環境作りを支援（無料）しています。

雇職前に一度相談してみてください。（希望により事業場との個別調整支援もいたします。）

治療と職業生活の両立のための手順（例）

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4
あなたから主治医へ	主治医からあなたへ	あなたから会社へ	会社による調整
主治医に対してあなたの「仕事の内容」を伝えます。（産業保健総合支援センターでは様式を用意しています。）	仕事の内容（業務）をもとに、あなたの得意な業務について、主治医に「意見書」を書いてもらいます。（産業保健総合支援センターでは様式を用意しています。）	主治医の「意見書」を会社に提出します。	会社では、主治医の「意見書」などをとら、従業員の対応、働く上での治療に対する配慮などについて検討し、可能な場合は「両立支援プラン」を作成します。

両立支援促進員が、それぞれのステップに応じた助言・支援を行います。お気軽にご相談ください。（裏面をご確認ください）

○京都府

●相談窓口の設置

（がん） <http://www.gansoudan-kyoto.jp/about/>

（難病等） <http://www.pref.kyoto.jp/nanbyou/documents/soudankai.pdf>

●相談支援マニュアル、がん情報ガイドの作成



がん患者・家族のための 京都府がん情報 ガイド（第5版）

京都府がん対策推進府民会議
情報提供充実対策部会

<http://www.pref.kyoto.jp/gan/ganninaltutaratenitorugaido.html>